

21	西 尾	福地中学校	オオニシ ユウキ 氏名 大西 雄己
分科会番号	1 0	分科会名	家庭教育

研究題目

1 はじめに

明治時代から約140年間、日本での成年年齢は20歳と民法で定められていた。この民法が改正され、2022年4月1日から、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられた。未成年から成人になると様々なことが変わるが、消費者トラブルに巻き込まれやすくなることもその1つとして挙げられる。国民生活センターの調査によれば、未成年から成人になりたての年代は未成年に比べ消費者トラブルに巻き込まれる割合が約1.5倍に増加する。その一方で、ICT機器の普及により、未成年が消費者トラブルに巻き込まれる割合もここ数年、増加傾向にある。

消費分野に関する内容が初めて家庭分野学習指導要領で扱われたのが平成元年告示のものであった。その当時は全体の8.1%の割合であったが、現行の学習指導要領になった平成29年告示のものでは、15.6%となっている。学習指導要領の変遷からもわかるように、義務教育段階からの消費者教育の必要性が高まっていることがわかる。

生徒の消費生活の実態をつかむために、スマートフォンに関するアンケート調査を行った。アンケート調査の結果から、100%の生徒が、スマートフォンを日常から使用しているとわかる（資料1）。また、使用しているスマートフォンの所有者に関するアンケートを実施した結果、100%の生徒が自分の所有物である（資料2）と答えている。生徒にとって、スマートフォンはなくてはならないものとなっている。また、生徒の関心も非常に高いということが、今回のアンケート結果からわかった。

生徒から、スマートフォンの購入、オンラインゲーム、SNSなどスマートフォン使用に関する話題をよく聞く。そこで、消費者教育を進めるうえで、スマートフォンを教材として扱うことは、生徒の実態に合っていると考えた。

このような状況を踏まえて、生徒たちには、社会情勢の変化に対応しながら、持続可能な物資・サービスの選択ができる力を身につけさせたいと考える。また、成人まで3年ということ、中学校卒業後、スマートフォンを新たに購入する生徒もいるということを踏まえて、スマートフォンを教材として扱うことで、生徒が日常から課題を見つけ、主体的に学習活動に取り組み、家庭生活の実践力を高められる賢い消費者へと、生徒を育成したいと願い、次の研究主題を設定した。



他者との対話を通して、自立した消費者に向かう生徒の育成
—スマートフォンを教材とした家庭分野の実践を通して—

2 めざす生徒像

- (1) 実生活の中から課題を見つけ、他者との対話を通して自立した消費者になるための展望をもつことができる生徒

3 仮説と手だて

仮説1：スマートフォンという身近な教材を扱うことで、生徒は3年後の自分の生活を見つめることができ、そこから課題を見つけることができるであろう。

仮説1の検証の手立てとして手だて①～③とする。

手だて①

シェア率100%のスマートフォンを教材として活用

生徒にとって身近な教材であるスマートフォンを扱うことで、生徒は物資・サービスの観点について消費者意識をもって考えることができ、切実感をもって課題に前向きに対応できると考えた。

手だて②

生徒の言葉で作る授業

生徒が疑問に感じていること、生徒が追究していきいたいことなど、生徒の言葉であったり、振り返りに書かれていることから汲み取ったりすることで、生徒は課題に対してより切実感をもって前向きに学習することができると考えた。

手だて③

ICT (Dx) の活用

生徒が実生活と照らし合わせながら課題と向き合っていくために、ICT (Dx) を活用しながら、物資・サービスの選択を考えていくことで、生徒はより切実感を持ちながら、自分が契約する際のことを踏まえて消費者意識をもって課題を追究していくことができると考えた。

仮説2：事前の調べ学習を行ったうえで、授業で話し合う場面を設ければ、生徒は根拠をもって他者と対話し、自立した消費者への展望をもつことができるであろう。

手だて④

一人調べ・対話の工夫

生徒が根拠をもって他者とかかわりながら自分の考えを述べる姿、他者と考えが違ったとしても消費者としての視点をもって対話をするようにするために、一人調べの時間を設定し、一人ひとりの考えを認めていくことで、生徒たちは自分の考えに自信をもち、他者とかかわることができると思った。

手だて⑤

問い返しの工夫

生徒同士で話し合いを行う際に、課題やめあてと話し合いの内容にズレが生じてしまう場面がある。そのために、教師の出として、生徒のつぶやき、生徒の言葉を生かした問い返しを工夫することで、生徒たちは消費者意識をもって、追究していくことができると考えた。

資料3 単元構想表

(8時間完了)				
課程	学習活動	留意点	思考の流れ	評価
つかむ 1時間	家庭生活における収入と支出について確認する。①	事前に生徒が回答した娯楽費、必要な物に関するアンケート結果を資料として提示する。	1か月に使うお金っていくら必要なのかな。 支出の中でも優先順位を考えて購入することが大事だね。より安く購入する方法を知りたいな。 スマホは、親が支払ってくれているから普段使用できる。スマホってどうやって契約しているのかな。 家族のおかげで自分の好きなものが買えるから、買ってもらった物を大切に使っていきたいな。	収入と支出について知ることができる。(1)(3)
深める 6時間	物資・サービスの購入方法について考える。② 売買契約の仕組みについて知る。③ 支払い方法の種類について知る。④	売買契約の仕組み、支払い方法の種類について資料を配付する。	売買契約の仕組みってどうなっているのかな。 多くの購入方法、支払い方法があるから、情報を適切に取捨選択をし、目的に応じて決めたい。 ほとんどのものを親が契約しているんだね。スマホってどうやって契約しているのか、知りたいな。 親のおかげで契約、支払いができていることを知った。自分で行えるか今後不安だな。	売買契約、支払い方法の仕組みについて知ることができる。(1)(3)
	様々な価値観に触れ、自分なりのスマホプランについて考える。⑤	プランについて選ぶポイントを考え、互いの価値観に触れるために、話し合いを行う。	(Bプラン)このプランどう思う。(本時5/8) 人それぞれ必要な物が違うし、生活している環境も違う。目的に応じてスマホの種類、プランを選択したい。 18歳になったら、自分で契約ができる。その際、消費者被害に巻き込まれないようにしたいな。 親のおかげでスマホを契約しているけど、3年後、自分が求めるスマホプラン、スマホに変更したい。	自分なりのスマホプランについて考えることができる。(1)(2)
	消費者被害について知る。⑥ 消費者の権利と責任について知る。⑦	消費者の権利と責任を提示し、消費者被害について考える。	消費者被害に巻き込まれないようにしたいな。 消費者として権利と責任を果たすことで、よりよい消費者になり、社会にもよい影響を与えられるね。 スマホを利用した消費者被害に気がついた。スマホが関わる環境問題もあるんだね。 親のお金で課金をしているけど、購入方法は本当に大丈夫か一度考えてから、欲しいものを買入したい。	消費者被害、消費者の権利と責任について知る。(1)(2)(3)
生かす 1時間	持続可能な社会にするために消費者として必要なことを考える。⑧	ESGカルスマホの資料を読み、持続可能な消費者について考える。	消費者として責任ある行動って何かな。 物を購入する際、環境や社会への影響も考えて購入することが、環境によい商品の普及につながるね。 環境によいスマホを購入することが、環境面だけでなく、生産者のことを考えた物の消費につながるね。 環境によいスマホがあることは知らなかった。環境面についても考えていける消費者になりたい。	消費者の在り方について考え、自分自身で考えることができる。(2)(3)
欲しいから、必要だから、物資・サービスを購入するだけでなく、消費者として、生産者や環境のことまで考えていきたい。				

4 研究の実際

ア スマートフォンが使えなくなったら生きていけない

単元の導入として、28歳の平均月収と一人暮らしをした際にかかる費用を予想した。生活に必要な費用と自分のための費用を分けて考えた。生活に必要な費用では、「こんなにかかるんだ」という声があがった。そして、自分のために必要な費用の中でこれだけではなくせないものを聞いたら、ほとんどの生徒がスマートフォンと答えていた。生徒にとっても身近なものを教材として扱い、そのうえで、自分の生活で必要不可欠な物を今後も使用していくために消費者教育を学んでいく事に対する切実感がある。

資料4 生徒Aの記述

収入と支出のバランスが悪いと借金をしてしまうかもしれないと思ったし、生きていけないと思った。そのために、必要なことは節約をし、無駄な出費を抑えることが大切だと感じました。私は、スマホは自分の生活になくてはならないけど、買い物やサブスクなどのお金を使っているから支払い方やプランを見直すことも必要だと思った。今の生活ができてるのは、親のおかげだけど、これからもこの生活をしていくために、消費について詳しく学んでいきたい。スマホがなくなったら生きていけないから、お金を大切にしていきたい。そのために、ふだん物を買いきりやうから、どこで物を買おうとよいか考えていきたい。

イ どこで買おうかな

生徒の振り返りに、「どこで物を買うとよいか考えていきたい。」と記述があったので、次時のテーマを「どこで買おうかな?」とした。(手だて②)多くの生徒が店舗販売と無店舗販売のメリット、デメリットを調べ発表する姿が見られた。生徒の発言の様子(資料5)を見ると、生徒Aは、実際に起きたことと、授業の課題を照らし合わせながら問いについて考えている様子がわかる。そして、周りの意見を聞きながら、自分なりの最適な購入方法について考えている。その一方で、自分が今まで経験したことに対して、知識がなかったため、その場で消費者として行動ができず、ただ受け入れることしかできなかった問題点もあげている。

生徒の言葉と実生活で使用していることを授業で扱うことで、課題に対し、自分ごとのように考えることにつながるのではないかと授業記録(資料5)から読み取ることができる。

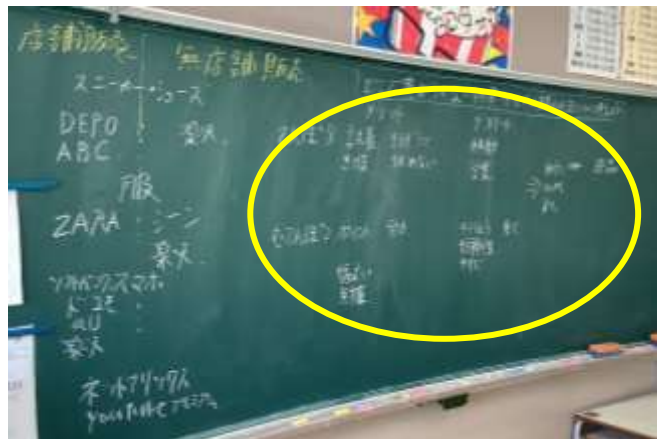
ウ 契約っていつ成立するの

契約について学習をしていく過程で、今まで自分がしてきた契約について生徒Aは、自分が物を購入する場面と照らし合わせながら、今後どのようにしていくとよいか考えている様子がわかる。その一方で、支払い方法で悩んでいる(資料6)こともわかる。自分に興味があるテーマであるからこそ、実生活

エ え!昨日お店で見たやつじゃん!

今まで学習してきたことを踏まえて消費者としてどうするかを考えていくために、スマホプランを選択する授業を行った。生徒がより切実感をもって、課題に取り組めるように、ICT(Dx)(手だて③)を活用して資料(資料7)を配付した。その資料を見たとき、生徒Aは「昨日携帯ショップで見たやつみたい。」とつぶやいた。その後、他の生徒からも「リンク先にとべる。」「お店で見るやつだ。」「自分はiPhone一択。」「絶対プランBだな。プランDは絶対ない。」などとつぶやく声が聞こえた。生徒が画面をくいいるように見る姿から、スマートフォンを教材として扱うことにより、生徒の興味がとても高まっていると感じた。生徒一人1台配付されているタブレットを活用し、二次元コードから資料を読み取り、実際の店で閲覧するような資料を作成したことは、より生徒が実生活に落とし込んで課題を考えることにつながると感じた。そして、実生活に落とし込んで考える姿が多く見られた。生徒Aの振り返り(資料8)には、「今の自分の使用状況から…」と書かれていた。この記述から、実際に自分にとって必要性の高い物資とサービスを課題として考えているため、実生活と授業での課題を照らし合わせながら考えてい

資料5 授業記録



B: 私は、店舗販売がいいと思って、店舗販売の方が実際に目に試着できて、サイズ間違えも無いからです。

C: 私は無店舗販売がよくて、ボタン一つで買えるので、移動の手間が無いからです。

A: 私は、無店舗販売がよいと思っていたけど、〇〇さんの意見を聞いて、店舗販売がよくて、以前購入した際にイメージと違う物が届いて、そのままにしちゃってもったいないことをしたからです。

D: それって、契約とか、返品について知っていたら解決できたんじゃないかな。

資料6 生徒Aの記述

今日は契約の仕方がわかって、契約は商品の売買でも発生していることがわかった。18歳になったら、今親がやっている契約を自分でやらないといけないので、今回の授業でわかった契約の仕方、返品、買う意思を示せば契約が成立することを覚えておきたいです。私はよくネットで物を購入するし、スマホを新しく買い替えようとしているので、考えて消費者として生活をしていきたいと思う。賢い消費者になるために、どの支払い方法がいいか知りたいです。

資料7 各携帯電話各会社のホームページを参考に作成したスマホプランの資料 ※詳細は二次元コードを読み取ってください。



資料8 生徒Aの記述

理由
四つの中で最も安いので選びました。今の自分の使用状況から考えてみると、使用データ量はあまり多くならないからいいと思うし、他のプランにあるような特典も自分が必要に思わないし満腹できなくてもったいないことになりそうだなと思って除外しました。また、電話料金がアプリ利用で0円になる点も魅力的だなと思います。強いて言うなら補償がついていないことが不安です。

〇補償
今回のプランにあるようなサブスクリプションの補償は、自分はあまり使わないだろうなと思いました。数ヶ月間ではあるけれど、使うかわからない特典のついた契約プランにお金を払う必要は個人的には感じられなかったです。他社には未だに購入しにくいからその点を重視しています。また特典にも補償が多まると思っています。自分が必要だと感じる補償はどのプランにも含まれているように感じています。

る姿であると感じた。スマートフォンを教材として扱ったこと、生徒が実際に店で見るようなリアルな教材をICTとDxを活用して作成したことにより、実生活と照らし合わせながら考える姿につながり、追究意欲の高まりを感じた。

オ プランBについてどう思う？

前時の授業のふり返り（資料8）に、生徒Aは「特典だけを理由に選んだ人がいるならその考えを聞かせて欲しいです。」と記入した。そこで生徒Aの考えを踏まえて、学習課題を「プランB どう思う？」にした。プランBはサブスクリプションの特典も付いており、生徒から人気の高いプランであるからだ。そのため、生徒にとって、プランの中でも他のプランと比較しやすく、実態に応じて考えることができるテーマだと考え設定した。話し合いに向けて一人調べの時間を設定した。生徒Aは、自分の考えを持つために意欲的に学習に取り組んだ（資料9）。以前配付した資料は各携帯電話会社の大手企業のホームページを参考に作成した資料であり、各種プランの説明など詳細

としてリンクから飛ぶようになっている。そのため、生徒にとっても、共通の資料となっており、調べやすい資料となっている。生徒Aは、自分の経験を踏まえて、調べ学習をしたが、日常からスマートフォンを使用しているため、自分の経験と照らし合わせながら学習課題に取り組む姿が見られた。生徒Aの記述より、私はだいたい「1カ月に15GBほど使うので…」と書かれている。生徒にとっても身近なスマートフォンを使用しているのも、生徒も自分事として捉えやすく、実生活と結びつけながら、意欲的に学ぶことができていると考えられる。これらの点から、手だて①、②、③は有効であったと考える。

キ 頑張ります！

一人調べを行った後に、「プランB どう思う？」という課題のもとに、話し合いの授業を行った。生徒Aは、自分と考えが違う生徒が発言した後に、自信をもって、自分の考えを述べる事ができていた。これも、一人調べを行った生徒Aと対話（資料10）をし、生徒の考えを価値づけ、生徒の自信が高まったからである。生徒が根拠をもち、意見が違う生徒ともかわろうとしたことより、手だて④は有効であったと考える。

生徒は、「プランBについてどう思う？」をテーマに授業で話し合いを行った（資料11）。生徒は、自分たちが使用するうえでそれぞれの価値観を持っていることがわかる（資料11）。しかし、本単元では、賢い消費者になってほしいという願いがあるため、「3年後自分が契約をするのなら、どのプラン？」と発問を投げかけた。それまで、データ通信、価格、サブスク、機種など自分が大切にしている視点で話し合いを進めていた（資料11）が、この発問をしたことによって、その前に比べて、自分が契約をするなら、どうすればよいのかという意識が高まったと感じる。しか



資料9 生徒Aの記述

資料10 生徒Aとの対話記録

T: Aさんはどのプランにした？
A: Aのプランにしました。
T: どうして？
A: プランBだとギガ無制限だけど、自分の今の使い方だと使用しないからです。
T: なるほど。
T: プランBはどう思った？
A: サブスクはいいと思うけど、必要ないと思います。プランBについて考えたんですけど、無制限よりも、〇〇社のようなプランにするとその人に合っていると思いました。
T: これおもしろいね。伝えたら。
A: ……不安です。
一人ひとりが意見を言うことで、たくさんの考えに触れられて、多くの学びがあるよ。ステキな考えだから言ってごらん。
A: でも、頑張って意見を言おうと思います。自分の考えに少し自信が持てました。頑張ります。

資料11 授業記録

B: プランBは無制限だし、ネットフリックスも付いてくるのでとてもいいなと思います。インスタが見ずぎでも困らないからです。
C: プランBは、iPhoneで使いやすいので、プランBは機種面でいいです。
A: ミラーリング使います。私は、Cプランの変動制のデータ通信がよいので、無制限は必要ないです。正直、使い切らなかつたらもったいないです。でも、Cプランのような設定なら使わない月にとってもいいなっています。
D: 私はandroidの方が安くていいので、検討の余地はあると思います。
T: 3年後みんなが契約するならどのプランがいい？
E: 私は3年後働いているので、あまりお金をかけたくないから、プランCがいいなって思いました。
A: 私は、3年後大学生になっていると思うので、あまりお金も使えないけど、iPhoneがいいから、Aプランにして、他でもう少し安くできないか考えていきたいです。

し、3年後、自分が学生で1カ月間にどれくらい稼ぐのか、社会人になった際の給料の目安など、イメージを十分に膨らませることができなかったため、生徒自身も、表面上でしか考えられず、実生活と照らし合わせる話し合いにならなかったと感じた。その点については、3年後の自分をイメージできるように他の分野と横断的に単元を進めていくことが大事であったと感じる。

資料12 生徒Aの記述

話し合いを聞いていて、結局その人にあったプランを選ぶのが一番いいと思いました。実際、androidよりもiPhoneを使っていて、楽しいと感じることが多いと自分の中では思います。大人になって生活をしていくにつれて、住宅にかかるお金やガソリンや電気代、他にも様々な費用がかかっていく中で、スマホなどのお金を払っていくとなると、前回やった支出と収入のバランスが大事だと思います。何でもかんでも好き勝手に選ぶんじゃなくて、自分の生活のバランスを考えながら選んでいきたいです。自分一人で考えていかなければいけない、知っていかなければいけないと思っていたけれど、今回の授業や話し合いのように、たくさんの人と学んで意見を交換することも大きな価値があると思いました。

生徒Aの記述より、「大人になって生活を…様々な費用がかかっていく…」(資料12)と書かれていた。この記述は、問い返しをしたことにより、3年後をイメージしたからこそ感じたと考えられる。そのため、問い返しを行ったことによって、他者とのかかわりが深まったと考えられる。手だて④、⑤は、生徒が深く考えるために有効であったと考える。

たくさんの人と学んで意見を交換する中で発見する価値について書かれている(資料12)。授業で話す力、話すための知識を蓄えること、自分に自信を持つこと、前向きに取り組む力を授業で伸ばす、高める、身に付けさせることが大事であると改めて考えさせられた。

5 考察

本実践で得られた成果と課題は下記の通りである。

仮説1について

仮説1については、実証できたと考える。手だて①のシェア率100%のスマートフォンを教材として扱うことで、生徒の関心が非常に高いと感じた。そのため、課題に対しても意欲的に取り組む姿や、疑問に思ったことやこれから直面する課題を解決できるようにしたいという記述や発言する姿が多く見られた。手だて②については、生徒に寄り添い、生徒の言葉で授業づくりを行ったことにより、生徒が追求したい課題をテーマにして行うことで、前向きに取り組む姿が多く見られた。手だて③については、生徒Aの「昨日スマホショップで見たやつじゃん。私悩んで〇〇にした。」という授業のつぶやきからもわかるように実生活に落とし込んで考えている姿があった。現在、生徒は一人一台タブレットが支給されている。そして、3年1組の生徒のスマホ所有率・利用率共に100%であるため、生徒が生活と照らし合わせながら前向きに考えていくための教材としては非常によいものであったと感じた。

仮説2について

仮説2についても、実証できたと考える。手だて④の一人調べ・対話の工夫を行うことで、今まで、授業中の挙手や自分の考えを持っても意見を伝えることが苦手だった生徒Aであったが、調べ学習を丁寧に行ったことにより、根拠をもつことにつながり、自ら積極的に考えの違う生徒と意見を交流し、考えを深めることができたと感じた。また、発言していく中で、根拠となる資料を用意した場面があった。価値観の違う生徒と話し合いを行ったことにより、消費者として必要な視点が広がったと考えられる。

6 まとめ

生徒Aは、賢い消費者になるための課題について追究することができた。学年の生徒の使用率が100%、学級での保有率が100%のスマートフォンを教材として扱ったことによって、意欲的に課題に取り組んでいけたと考える。そして、生徒の言葉で授業のテーマを考えたことにより、生徒たちは意欲的に課題に向かっていくことができたと考える。生徒が実生活の課題と授業を結び付けて考えることができるように、ICT、Dxを活用したことにより、切実感をもって、課題に取り組むことにつながった。今回作制した資料はとても価値のあるものであったと考える。

生徒たちは根拠をもって、話し合いに臨み、考えの違う生徒とも話し合いで関わることであったと感じた。生徒が自身の考えに自信を持つために、価値づけがとても大事であると感じた。これからも授業を通して生徒を鍛えていきたいと思う。話し合いを通して感じたことは、現実と非現実を区別することの重要性である。根拠をもって関わるできるようになった点はとてもよい。しかし、3年後の見通しをもたせるという条件の押さえが甘かったことが反省である。学級の誰一人取り残さない発問、教材、単元づくりを突き詰めていきたい。